



北野 俊  
サンオータス  
取締役社長

経済同友会 つながる▶▶

## リレートーク #225

# 人との出会いは 自らを成長させる糧となる



津上 晃寿  
キャノントッキ  
取締役会長兼CEO

有機EL製造装置を手がける現在の会社に入社する前、米国のビジネススクールに留学していた2005年頃の話。留学前、自分に課した目的が三つあった。①経営を体系的に学ぶこと、②国際性を養うこと、③将来の財産となる人たちと出会うこと。私の学んだ大学院は世界60カ国以上から学生が集まる国際色豊かな学校だったため、最初の二つは学生生活を通じて何とか学び得られたが、三つ目は学友との出会い以外にも、米国にいる利点を活かした出会いを探していた。

「技術政策と国際競争力」という選択教科を受けていたとき、革新的な製品の基礎技術は大学や研究所から生まれると学び、米国で有機ELディスプレイや有機照明、有機半導体等、いわゆる有機エレクトロニクス研究分野の権威にお会いし、幅広い人脈を得ることを思いついた。最初は何のコネもないため、インターネットで特許を多く保有する大学教授や研究者の関連記事を調査し、駄目目で直接メールした。「自分は有機EL産業にかかわる会社に入る予定で、これからこの業界に大きく貢献したい。帰国前にぜひあなたとつながりたいので会ってもらえませんか」。当社の業界での知名度の高さもあり、幸運にもメールしたすべての人たちにご快諾いただいた。なかでもカリフォルニア大学サンタバーバラ校のノーベル化学賞受賞者アラン・J・ヒーガー教授や、青色LEDで後のノーベル物理学賞を受賞された中村修二教授にも快く受け入れていただいたときには、米国の懐の広さに感銘を受けた。

約1カ月かけて全米の大学7校と3研究所を訪問し、多くの教授や研究者と出会ったことで、有機エレクトロニクスの将来性を確信することができた。この経験は私にとって、「帰国後はこの産業の発展に大いに貢献し、会社も成長させよう」という強い志と情熱を持つ重要なきっかけとなり、その後の会社経営に大変役立っている。帰国後は、訪問した研究所と当社で技術交流や共同開発の検討を進めたり、お会いした教授を日本に招き、米国の有機EL研究について国際展示会で講演していただいたりと関係が発展し、まさに私の財産となる出会いに恵まれたと感謝している。

「人との出会いは、自らを成長させる糧となる」

これは留学時代に得た私の人生観の一つである。経済同友会でもたくさんの素晴らしい方々との出会いがあり、多くを学ばせていただいている。これからも良き出会いに巡り合えるよう、自らも成長していきたいと思っている。

▶▶ 次回リレートーク

田中 豊人  
GEジャパン  
専務執行役員